

光明寺だより

第89号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL.0897-53-4583



心に残る詩



心に

神谷由里

65

じつところらえて

待ちましょう

おだやかな

心地よい言葉となつて

身の内から

思いが出る時まで

じつところらえて

待ちましょう

心に あたたかく

やさしい思いが

満ちるまで

産経新聞「朝の詩」より



新盆合同追悼法要

8月13日14日

両日とも 第1回目 午後6時30分
第2回目 午後8時

一口法話

門徒もの知らず



皆さんは、「門徒もの知らず」という言葉
を聞いたことがあるでしょうか。

この地方では、同じような意味合いで「一
向、かいこう、もの知らず」というような
ことをよく言っておりました。(最近はおま
り聞きませんが・・・)

門徒とは浄土真宗の在家の信者のことを
言いますが、言葉通りに解釈すると、浄土
真宗の信者はものを知らない、もつと言え
ば世間の常識を知らないという意味に使わ
れていました。特に仏事(法事・葬式)で
は地域の決まりごとやしきたりといったも
のが根強く残っていますが、そういったこ
とにあまりとらわれないことから浄土真宗
の信者は常識がないという意味でこの言葉
は使われていたようです。

しかし、この言葉は元々、「門徒物忌み知
らず」と言われていたものが略されて、「門
徒もの知らず」になったと言われています。
つまり「ものを知らない」というのではな
く「物忌みものいを知らない」ということです。
「物忌み」というのはバチやタタリを畏れ、
それを避けることを言います。

実は、この物忌みというものが浄土真宗の
教えから言えば、全くの迷信・俗信なのです。

つまり、「門徒物忌み知らず(門徒もの知
らず)」とは、迷信俗信にとらわれない浄土
真宗の門徒の生き方を示した言葉だったの
です。

江戸時代の儒学者、太宰春台が、

「浄土真宗の門徒は弥陀一仏を信すること
専らにして、いかなることありても祈禱な
どすることなく、病苦ありても呪術、お守
りをもちいず。みなこれ親鸞氏の力なり」
と、語っているように、その門徒の暮ら
しぶりは、古くから大変驚異の目で見られ
ておりました。

ここで、「物忌み」と言われるものをいく
つか紹介してみましよう。

まず、「大安」「仏滅」「友引」といった、
日の良し悪しをいう、「六曜」というものが
あります。

友引には葬式は出さない、結婚式は仏滅に
しない、大安にするといったことです。

なぜ、友引に葬式をしないのかというと、
死んだ人が親しい友を引っ張っていくから
というのです。つまり「友引に葬式を出し
て親しい者があの世に連れて行かれたら大
変じゃ」というわけです。

これは友引という字が、「友を引く」と書
くことからきた誤解で、全く根拠のない迷
信です。

或いは、結婚式が「大安」を選んで行なわ
れることが多いと思いますが、これも同じ
ような考え方から来たものです。しかしな
がら「大安」に結婚式を挙げたからといっ
て必ずしもすべての夫婦が幸せになっ
るとは限りません。ちなみに、昨年離婚し
た夫婦は30万組あります。

この六曜は中国の占いから生まれたもので
すが、今ではその本家本元の中国でさえ無
意味なものとして使われていないとい
う、とんでもない代物なのです。

少し考えればすぐに分かることです。日に
良し悪しなどあるわけがないのです。私に
とって、今日という一日は後にも先にもな
い、たった一度きりの一日です。大事なこ
とは、かけがえのないこの「いのち」を精
一杯輝かせて生きていく、そんな一日にし
ていくことです。

まさに「日是好日いちにちはこうじつ」なのです。
また、物忌みには語呂合わせに
よるものがあります。

病院や、ホテル、マンションに
4号室や9号室がないのを見かけ
たことがあると思いますが、これ
は言うまでもなく数字の「4」



は死を連想し、「9」は苦を連想することからきた物忌みです。

また、四十九日(しじゅうくにち)が三ヶ月(みつき)にまたがる場合、それを嫌って法事の日程を早めるということをよくします。

これは、

四十九日(しじゅうくにち) 始終(しじゅうくわ) 苦し(くる) しみ

三月(みつき) 身(み) につく

つまり「始終(しじゅうくわ) 苦し(くる) しみ(み) が身(み) につく」という語呂合わせから来ています。

四十九日(しじゅうくにち) が三ヶ月(みつき) にまたがると、自分たちに「始終(しじゅうくわ) 苦し(くる) しみ(み) が身(み) につく」からしない方がいいということなのです。これもまたお粗末(そまつ) な俗信(ぞくしん) です。

中陰(ちゆういん) は亡(な) き方(かた) を偲(しの) び、また悲(かな) しみを癒(な) す期間(きかん) である(ある) と同時に、この私(わたし) が仏法(ぶつぽう) に出遭(い) うためのご縁(ごえん) にしていくことが大事(だいじ) なのです。特に、葬儀(そうぎ) ともなると、「物忌(ものい) み」のオンパレード(パレード) です。

★一膳飯(いちぜんはん) に箸(はし) を立てる。

★遺体(いたい) の上に魔(ま) よけの刀(やいば) を置く。

★出棺(しゆくわん) 時(とき) にお茶碗(ちawan) を割(わ) ける。

★お棺(くわん) をぐるぐる回(まわ) す。

★清(きよ) め塩(しほ) を使う。

★火葬場(くわいじやうじやう) への行き(いき) と帰り(かえり) の道(みち) を変(か) える。

少し(すこ) し思(おも) いついた(つ) いただけ(だけ) でもこんな(こんな) なにあり(あ) ります(ま) す。これ(これ) らはすべ(すべ) て、バチ(ばち) やタタリ(たたり) を畏(おそ) れること(こと) から生(な) まれた習俗(しゆじゆく) です。

無知(むち) とはいえ、亡(な) き方にこの上(う) もない失礼(しつれい) なこと(こと) をしている(して) いるのです。

物忌(ものい) みは、これ(これ) 以外(い) にも、方角(かたかく) の吉凶(きこく)、家相(けさう)、手相(てさう)、墓相(ぼさう)、占(う) り、まじない、厄払(やくはら) い等々(とうとう)、数(かず) え上げ(あ) げればキリ(きり) がありません(あ) りませんが、すべて迷信(めいしん) 俗信(ぞくしん) のたぐい(たぐい) です。

親鸞(しんらん) 聖人(せいじん) は、こう(こう) した迷信(めいしん) 俗信(ぞくしん) に惑(まど) わされている(して) いる人々(ひとびと) を悲(かな) しまれ、すで(すで) に八百年(やっぴゃんねん) の昔(むかし) に、次(つぎ) のよう(よう) なご和讃(わさん) を作(つく) られていま(いま) す。

悲(かな) しきかな(かな) や道俗(どうぞく) の

良時(りやうじ) ・吉日(きちつ) ならば(ならば) しめ

天神地祇(てんじんちぎ) をあ(あ) がめ(め) つつ

卜(ぼく) 占(せん) 祭祀(さいし) つとめ(め) とす

意識(いし) すれば(らば)、「悲(かな) しいこと(こと) に、今(いま) 時の僧侶(そうりよ) や民衆(たみしゆ) は、何(なに) をする(する) にも日(ひ) の良(よ) し悪(わる) しを気(き) にして(して) みたり、また天(あま) の神(かみ)、地(ち) の神(かみ) を奉(ほう) り、占(う) りやまじない(まじない) などの迷信(めいしん) にか(か) かり果(は) せている(い) る」という(いう) こと(こと) です。

このご和讃(わさん) に説(と) かれて(て) いる(い) ることが、科学(かがく) の発達(はつたつ) した今日(けふ) でも全(ぜん) く違和感(わごかん) なく受(う) け入れ(い) られる(ら) れるところ(ところ) に、人間(にんげん) の根元(ねもと) 的な迷(まよ) いは昔(むかし) も今(いま) も変(か) わって(て) い(い) ない(ない) のです。

根拠(こんこ) のない迷信(めいしん) や俗信(ぞくしん) に振(ふ) り回(まわ) され(さ) れ、右往(うわう) 左往(さわう) する(する) よう(よう) な人生(にんげん) を送(おく) らない(ない) た(た) め(め) にも、お念仏(ねんぶつ) の教(きょう) えを(を) しつ(し) かり(かり) と聞(き) いて(て) いた(いた) だ(だ) きたい(たい) と思(おも) っ(っ) て(て) いま(いま) す。

「現世(げんせい) 祈(いの) 禱(た) や、まじない(まじない) を行(な) わず、占(う) りな(な) どの迷信(めいしん) にた(た) よら(よ) んない(ない) 」こと(こと) を宗風(そうふう) として(して) いる浄土真宗(じやうどしんしゆ) の教(きょう) えこそ(こそ)、まさ(まさ) に私(わたし) たちの迷妄(めいぼう) の心(こころ) を照(て) ら(ら) す灯炬(とうこ) であり(あ) ります。

★灯炬(とうこ) — 灯(とう) は常(とこ) のともしび

炬(こ) は大(お) きな(な) ともしび



光明寺ホームページ

南岳山(なんがくざん) 光明寺(くわうみやうじ)

検索(けんさく)



浄土真宗のしきたり

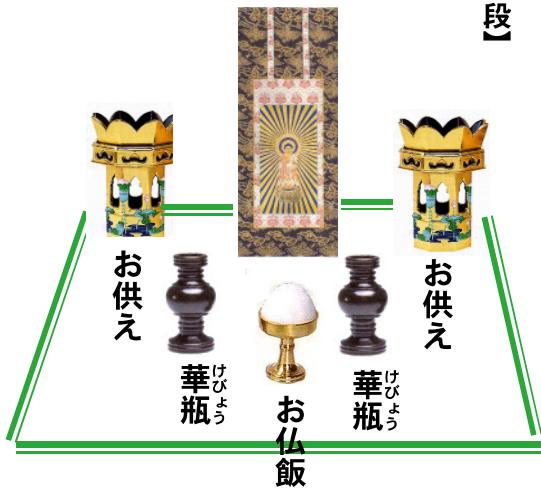
新しい檀家さんが増えてきましたので法事のお飾りとお経のことについて説明いたします。

◆法事のお飾り

お法事は亡き人を偲びつつ、そのご命日を「縁」として、この私がお念仏のみ教えに出遭わせて頂く大切な仏事です。出来るだけお仏壇の前でお勤めをしましょう。

法事用の祭壇（莊嚴段）しょうげんだんを設ける時は、「祭壇は臨時のお仏壇」ということを忘れずに、お飾りをして下さい。三段の祭壇の場合のお飾りを図示しますので、参考にして下さい。

【上段】

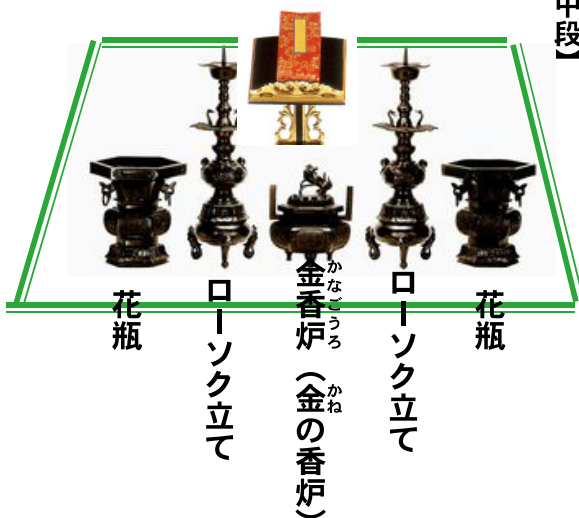


【下段】



過去帳

【中段】



【注意事項】

- ★上段に必ずご本尊をお祀りします
- ★上段の華瓶には桜を入れます
- ★中段の花瓶には生花を入れます
- ★お線香は寝かします
- ★お茶・お水はしません
- ★お霊供膳はしません
- ★お位牌はまつりません

~~ダメ!~~



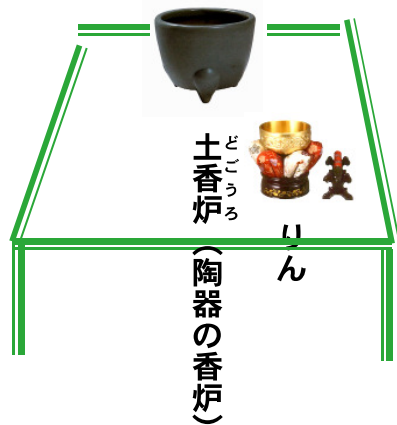
お位牌



霊供膳



お茶・お水



土香炉（陶器の香炉）

りん

◆浄土真宗では『般若心経』をなぜ読まないのですか？

お経は、お釈迦さまの「説法をまとめたものです。従って、お経を読むということは、お釈迦さまの「説法を聞かせて頂くことだ」ということを、まず知っておいて下さい。

お釈迦さまの「説法は、対機説法と言われるように、その人に応じた説き方をされました。ですから、お経を読む上で大事なことは、そのお経が私に合ったお経かどうかということです。つまり私が容易に理解出来て、実践可能な教えかどうかということです。

そこで「般若心経」ですが、このお経は、自らの力で智慧を極め、悟りを開くという極めて難解な教えが説かれています。我々凡夫には到底理解出来るようなものではありません。言ってみれば幼児に大学生用の教科書を与えるようなものです。このようなことから、浄土真宗では「般若心経」はいくら読んでも、読んだ意味がありませんから読まないのです。

それでは浄土真宗では、どんなお経を読むのかと言いますと、阿弥陀さまの救いを説いたお経（浄土三部経＝無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経）を読みます。

これらのお経には、智慧もなく行も出来ない私のような凡夫が、間違いなく救われていく道理が説かれてあります。

私たちが日常読むお経は『正信偈』・『阿弥陀経』・『讃仏偈』などが良いでしょう。

“ご恩は頂くばかり” 「春の彼岸会法座」勤まる



3月24日（火）午後2時より、小林顯英先生（大阪法栄寺前住、元本願寺伝道院講師）をお招きして「彼岸会法座」を開催いたしました。

【講演主旨】

仏教行事の後に、よく「^{おんどくさん}恩徳讃」を歌います。この歌は、阿弥陀さまの大悲のお心と、お念仏のみ教えを伝えて下さったありとあらゆる人々に対し、感謝申し上げますという主旨の歌です。

あらゆる人々を無条件で救って下さる阿弥陀さまのお心を大慈大悲と言います。一方、私たちは、「小慈小悲もなき身にて・・・」と親鸞聖人が仰っていますように、自分の事しか考えない、自分さえよければいいという心しか持ち合わせていません。そんな私が阿弥陀さまのお心（大慈大悲の心）に出遭う時、浅ましい我が身に気づかされていきます。しかも「仏かねてしろしめして・・・」（歎異抄）と言われるように私が気づくより、はるか昔に私の浅ましい姿を見抜いて、「そのままで良い。決して見捨てることはない」とはたらきかけて下さっていたのです。

今初めて知らされる阿弥陀さまのお心（大慈大悲）を思う時、その尊いご恩に「ありがたいことです。もったいないことです」と感謝申し上げずにはおれません。

ご恩は決して返せるものではありません。只々、頂くばかりなのです。

趣味の広場



俳句を楽しむ (六十八)

森本隆を

この「光明寺だより八十九号」が皆さんのお手元に届くのは、八月上旬、一年で最も暑い時期にさしかかった頃と思います。夏まっさかりと言いたいところですが暦の上では八月八日が立秋です。旧暦ではまだ七夕も来ていません。新暦の八月二十日が、実は旧暦での七夕の日です。即ち、俳句の世界では八月八日以後はもう秋なのです。そこで今回は旧暦に合わせ、まだ間に合う「七夕」の話。

中国から伝わった七夕伝説が日本の貴族社会に受け入れられ、奈良時代には既に七月七日の夕べ、天皇はじめ貴族、官人たちが盛んに詩宴を開いていたと記録にあります。星祭りとして七夕行事が広く一般化するのには江戸時代で、五節句のひとつとされています。

七夕行事をめぐる伝説は日本各地にいろいろな形で伝わっているようです。天女、龍、瓜、天の川等々にまつわる多彩な伝説を集めると『瓜と龍蛇・いまは昔むかしは今』という、大冊の書物になっていくくらいです。

まず江戸の頃の俳諧はというと
七夕や秋を定る夜の初

芭蕉

七夕や先ず寄り合ひて踊り初め 惟然
七夕の踊りになるや市の跡 涼菟
ずいぶん庶民的な感覚で七夕を詠んだ句ですが、元来、「七夕」は夏と秋の交叉の祭りとされ、季節感も夏の感じが色濃く残り、盆踊りなどの行事の雰囲気も重ね合っているようです。

また、七夕の行事には、彦星と織姫の伝説や星合の話の他、女性が裁縫の上達を願うとか、梶の葉に苺葉の朝露を集めて墨をすり、それで文字を書いて書の上達を願う、などとロマンチックな話から庶民の現実的な願いごとまで幅広く話がちりばめられてきました。

六、七十年前には、七夕の日は短冊に願い事を書き、三宝に季節の野菜や果物を供えて、多くの家庭がそれらしくやっていた記憶がありますね。

無理難題ばかり吊され七夕笹 上谷 昌憲
七夕竹半ばは沈み夜の沖へ 村沢 夏風
七夕竹そよぐ風待ち水を打つ 及川 貞
竹立てて七夕といふ字が浮び 上野 章子
七夕竹惜命の文字隠れなし 石田 波郷
前四句、猛烈に暑かった日々が過ぎ、ふと秋の気配を感じつつ七夕のゆうべを静かに、しみみりすこしている気配の伝わる句ですね。最後の一句は病身を診療所に預け暮らした作者の痛切な気持ちの句です。俳句には珍しく真剣さのほとばしる一句として加えてみました。

さて、七夕に関連した季語は他に「硯洗」、「二星」、「牽牛」、「織姫」、「梶の葉」などた

くさんありますが、それらの中から一つだけ「星合」を取り上げてみます。

人の声今美しく星祭 深見けん二
星合の風吹いてある一夜鮎 塚本 久子
暁のしづかに星の別れかな 正岡 子規
星の恋空に任して老いにけり 阿部 次郎
夕かけて藍のときめく星迎へ 川崎 展宏
「星合」の項で出てくる季語の数々を、色々な俳人がうまく語の表現を変えて佳句を詠んでいます。俳句の自由で大らかな世界をかいま見たような気分になりますね。暑さもあと何日か、夏に負けず爽やかな季節を楽しみにお過ごしください。



住職書作品



【字句】

西方安樂国
南無彌陀佛

一念又十念

往生何所疑

—良寛の詩—

BOOK 本

『生きかた 死にかた』



発行所 本願寺出版
著者 友久久雄
定価 800円+税

本書は浄土真宗本願寺派の僧侶であり、京都大学付属病院小児科で子どもの精神科領域の診察を行う医師である筆者が、精神科医としての雑感、僧侶になるまでの出会い、仏教カウンセリングやビハーラ活動などの活動事例を通して、現代社会を生きるヒントと、誰一人逃れることができない死の受けとめについて語ったものである。

・・・元気な時に「死」について考えることの大切さをつくづく感じます。死んだらそれっきりと思っている人と、安心して帰るところがある人とは、生きかた、死にかたに大きな違いがあるのは当然でしょう・・・

(本書の一節より)

彼岸会法座

9月27日(日)

★おつとめ 1時30分
★おはなし 2時

【講師】備後教区・法光寺住職
季平博昭師

「光明寺だより」をご家族の皆さんで
お読みください

次回発行予定：11月下旬



言葉のプレゼント

「死んだらしまいだ」という人に訊ねてみたい。
最愛の人が今自分の手の中で最後の息を引取るうとして、「私死んだらどこへいくの」と聞いた時、「死んだらしまいや」と言えますか？

第25回仏教定期講演会

礼儀作法のイロハ
仏間・床の間のおもてなし

【講師】香道泉山御流
にしぎわこうよ
西際好譽宗匠

とき 10月24日(土) 午後2時
〈開場1時30分〉

ところ 西条国際ホテル2F
入場無料 定員100名(先着順)

【主催】西条仏教青年会 【後援】西条仏教会

★3月24日(火) 午後2時より小林顯英先生をお招きして「春の彼岸会法座」が開催されました。30名の参拝者がありました。

(*関連記事5ページ)

★新住職夫妻に新しいいのちが授けられました。出産予定は11月です。第一子の、心(通称こちゃん)はおしゃべりが出来るようになりました。9月で満2歳になります。

★故眞鍋嘉一郎・田中大祐、両氏のお世話で常心のお旅所の近くに建立された常真法師の顕彰碑が事情により移転することになりました。森本隆雄氏・安永省一氏を中心に有志者のご厚意により現在移転の手続きが進んでいます。

★第25代専如門主ご就任に伴う「伝灯奉告法要」への本山団体参拝日が平成29年4月25日から5月2日の間に決まりました。

